

会 派 名 報告者氏名	民社友愛 佐藤和典、相澤宗一
種 別	■調査研究（■行政視察） □研修会 □要請・陳情 □各種会議
用 務	① 松阪新電力株式会社について ② MICE の業務展開について ③ 介護支援サポーター事業、在宅医療・介護連携支援センターについて
日 時	令和元年 7 月 29 日（月） ～ 令和元年 7 月 31 日（水）
場 所 （会 場）	三重県松阪市、三重県桑名市、京都府八幡市
調査項目等	<p>① 昨年に柏崎市地域エネルギービジョンが示され、今年度から地域エネルギー会社設立に向け事業が展開される。設立はおおむね 3 年後であるが、電力小売り会社の運営を行う自治体も増えており、今後の地域エネルギー会社設立において、当市としての課題も発見できるのではないかと考え、先行する松阪市の状況を確認し、今後の設立に役立てたい。</p> <p>② MICE とは、企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称である。 人口減少、社会構造が著しく変化していく中、「桑名市の新しい産業と観光の融和事業」について学び、「柏崎市の新たな稼ぐ仕組み」の構築へと結び付けていきたい。</p> <p>③ 介護予防およびシニア・シルバー人材活用策として、介護支援ボランティア制度（介護認定を受けていない 65 歳以上の方が、介護保険施設等で行ったボランティア活動の実績に応じてポイントを付与し、貯まったポイントを換金できる有償ボランティア制度）を導入する自治体が増えている。八幡市では介護支援サポーター事業として、事前にサポーター養成講習会を行い、一定の知識・スキルを身につけた上で市内の介護施設で活動している。その状況や効果を確認し、当市での導入の可能性を研究したい。 また八幡市では医療・介護の関係者を対象とした八幡市在宅医療・介護連携センターを開設している。詳細を知ること、当市での医療・介護のさらなる連携につなげたい。</p>
概 要	<p>① 松阪新電力株式会社について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業構想 ・全国の事例と事業パートナー選定スケジュール ・事業目標 ・新会社の概要（事業概要） ・成果と課題 <p>② MICE の業務展開について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジュニア・サミットの誘致に向けて ・地方創生のための戦略の策定 ・インバウンド事業「産業観光」への道筋 ・産業観光と観光事業との融和の取り組み ・MICE 誘致事業

③ 介護支援サポーター事業、在宅医療・介護連携支援センターについて

- ・介護支援サポーター事業
- ・八幡市在宅医療・介護連携支援センター
- ・介護人材不足解消の取り組み（八幡市就職フェアの実施、ソフトテニス実業団チーム選手を介護人材に）

所 感 等

① 松阪新電力株式会社について

【相澤宗一】

松阪市は地元事業者との連携による電気の小売りでのまちづくりを目指し、エネルギーコストの地域内循環を実現させるため複数の金融機関からの出資を受けている。



柏崎市は現在、地域課題の分析や有効利用の可能性、電力需要量の調査等市内のエネルギーポテンシャルを中心に調査がなされている段階ではあるが、運営における財政面のバックアップも必要であり、地域エネルギー会社の実現可能性の調査情報は、金融機関を含め市民に広く情報提供が必要であると感じた。

【佐藤和典】

松阪新電力での事業収益を、松阪市の地域好循環創造基金に寄附することで、森林保全などの地域活性化への取り組みを推進し、持続可能な低炭素社会の実現に貢献している。これらの取り組みは、ただ単に再生可能エネルギーの普及ということだけではなく、その先に何があるのかということを確認にして事業化することが大事だと感じた。一方で、松阪市の公共施設では、松阪新電力から従来よりも安い料金で電気を購入することにより経費の削減につなげることができた。柏崎市の公共施設の現状もあり今すぐに横展開するところまではいかないが、一つの手法として貯蓄しておきたい。

② MICE の業務展開について

【相澤宗一】

柏崎市内には桑名市と同様に技術力の高い企業が存在しており、それらへの製品納入や技術交流等で訪問される方は少なくないと思われる。視察や研修等企業の技術力を観光材料にして、訪問者を呼び込むとともに、市内滞在時間を長くさせるしくみが必要と考えたとき、それを導き出すためのまち全体での取り組みが「産業観光」であると理解した。柏崎市はその素材を持っており、あとは「産業観光」の概念を市内企業に知ってもらう必要がある。



【佐藤和典】

産業観光のテーマは日本国内だけではなく、海外からも関心が高く MICE 誘致に向けたコンテンツとして有望である。前提として地元企業がしっかりとした事業をやっていることで初めてこの産業観光事業が成り立つが、柏崎市内の企業は十分な資質を持

っている。それらの企業が持つ、魅力ある視察内容を提供するための参加企業拡大に力を入れることが次善の策である。行政としては、地元企業の大きな課題となっている人材確保の支援など、地元企業が元気になるような施策も併せて行っていくことも大事である。次の一般質問で取り上げてもらうこととする。

③ 介護支援サポーター事業、在宅医療・介護連携支援センターについて

【相澤宗一】

可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるよう「地域包括ケアシステム」の構築が大きな課題であり、介護支援サポーターはその中の機能のひとつである「生活支援」や「介護予防」の担い手を元気なお年寄りに求めるシステムである。これに携わることで自らの介護予防にも役立ち、利用者はもとより、介護現場をも助けている。

「ボランティア＝奉仕」よりは「サポート＝支え」のほうがマッチしている。言葉の当て方もとても大事であると感じた。



【佐藤和典】

柏崎市はスポーツの街である。社会人として勤務しながら専門的にスポーツを続けてもらえる環境整備が必要であると日々考えてきた。柏崎市には水球やソフトテニスなど少なからず支援に取り組んでいる企業もある。そんな中、京都府八幡市では、特別養護老人ホームなどを運営する社会福祉法人「秀孝会」が、女子のソフトテニス部を誕生させた。選手たちは介護職として日々働く一方、「日本一」を目指す実業団のメンバーとしてプレーする。人材難に頭を悩ませる介護の職場と、実業団チーム数の減少が課題となっているソフトテニス界が手を組んだ試みとして大変勉強になった。本来の調査項目とは若干逸れるが副次的な成果として報告したい。